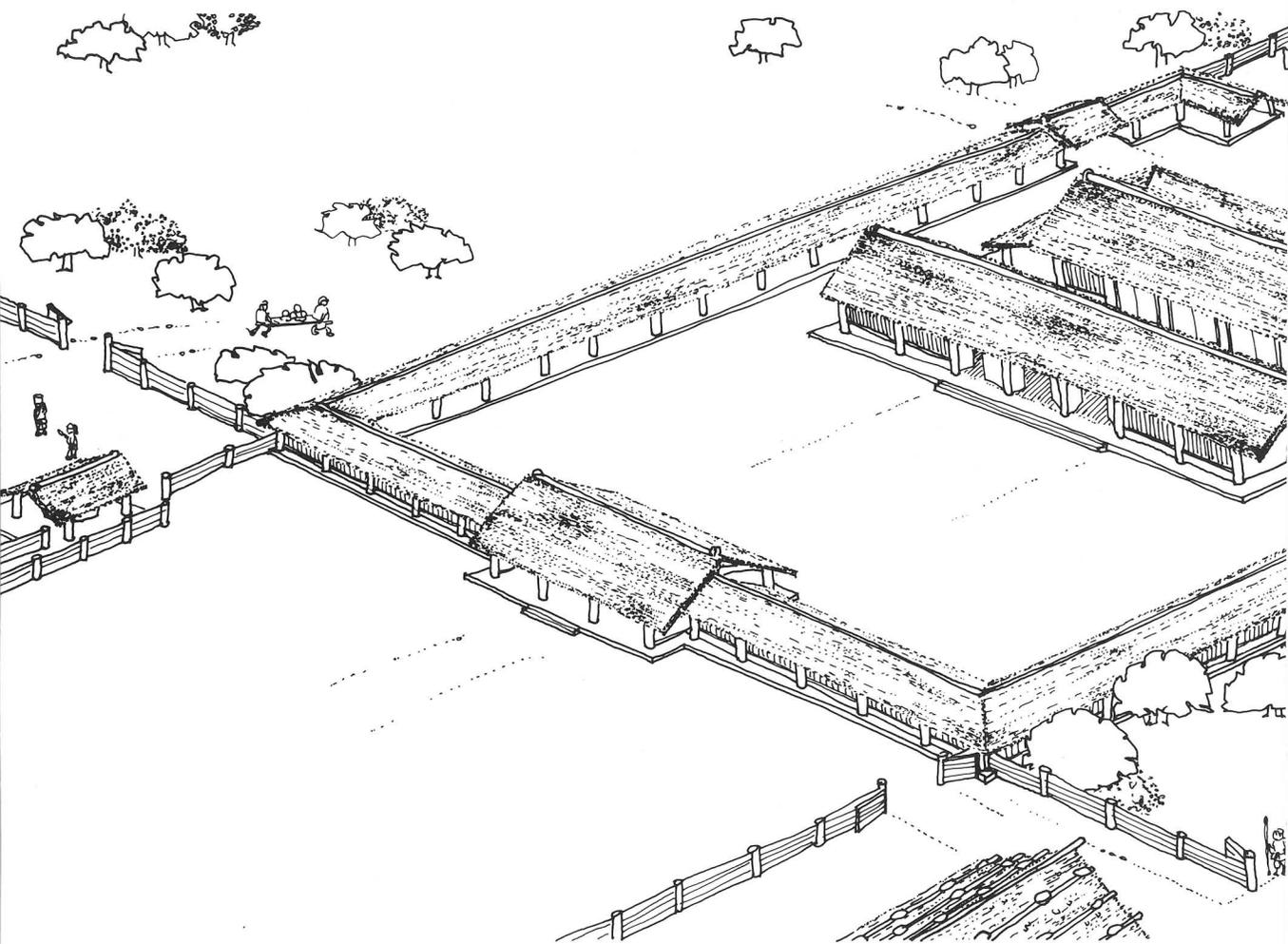


平城京左京四条二坊一坪



序

奈良の総合的研究を目指して設立された当研究所は、奈良県が大阪のベッドタウンとして開発の波に洗われ始めた10数年前から、平城京跡の調査にも携わるようになった。近年の平城京跡の調査成果は目覚ましく、1200年前の首都の生活を、遺構や遺物の上から明らかにしつつある。

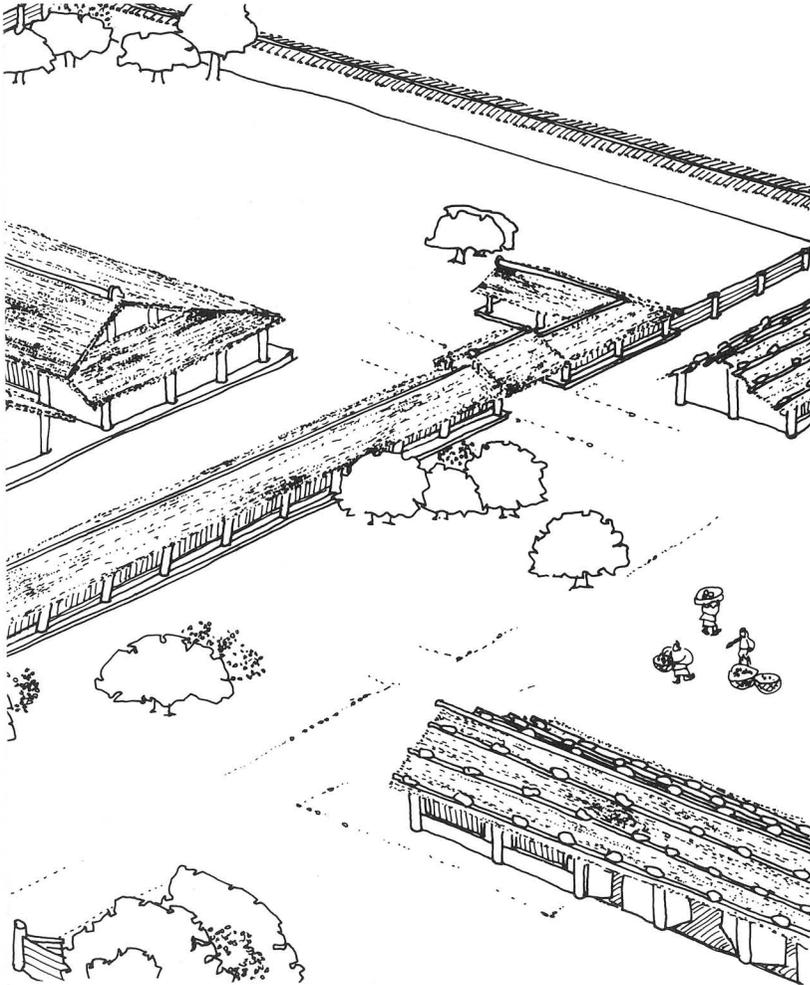
平城京では、役人は政府から宅地を身分に応じて支給されたが、その広さや、彼らが構えた家屋敷の構造などわからないことが多い。

本書は、万葉集で有名な市原王の邸宅跡とする説もある左京四条二坊一坪の調査報告である。ここでは大きな正殿の周囲を回廊が囲む遺構を発見した。回廊というのは、京内では宮殿の中枢部や寺院で使われるほかは、あまり例のない施設である。これが役所の一部か、貴族の邸宅の一部なのか論議の分れるところであるが、この調査成果が今後の平城京跡の調査研究に資するところは大きいものがある。調査に御協力いただいた関係機関に感謝する次第である。

1987年3月

奈良国立文化財研究所長

鈴木嘉吉



奈良国立文化財研究所